



1 線1「太陽がいつぱいの国」と反対の意味で用いられている言葉を、文中から六字で書きぬきなさい。

鉛色の空の国

「鉛色の空」とは、太陽の光がよわいくもり空のこと。

2 線2「そういう住まいの伝統」について次のように説明するとき、に当てはまる言葉を、文中から十字で書きぬきなさい。

日本人は、長年、夏の暑さをさけるために

日ざしをさえぎる構造の

「そういう」の内容は、すぐ前の一文に書かれている。文の中から「日本家屋の伝統」としてあげられている点をさがそう。

家屋を住まいとしてきたということ。

3 2と4段落の要点を次のようにまとめるとき、に当てはまる言葉を、九字で書きぬきなさい。

夏の都会は、建物の熱やクーラーの排熱などで

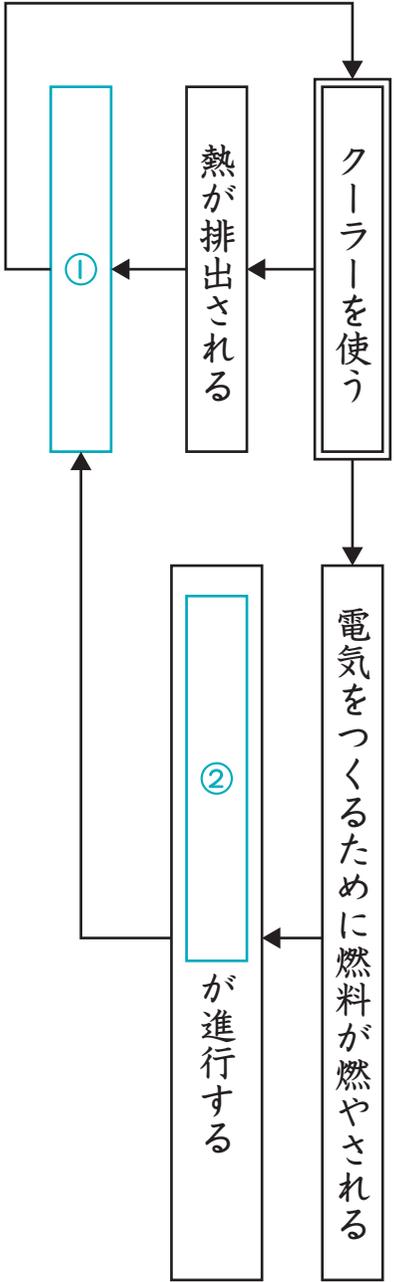
ヒート・アイランド

になる。

4段落の最後の文の中に「夏の都会は、熱のかたまりのようなヒート・アイランドになります」とある。

4 線3「暑さの悪循環」を次のようにまとめるとき、、に当てはまる表現を、

①は十字以内で書き、②は文中から五字で書きぬきなさい。



① (例) すます 気温が上がる

5段落の内容をよく読もう。クーラーの排熱によって、どんなことが起きるのか。

② 地球温暖化 最後の一文に書かれている。

5 この文章で筆者が最も述べたかったことがまとめられている段落の番号を書きなさい。

1 段落

筆者の主張は、「いちばん初めの段落で述べられている。」「どこの国の住宅も、それぞれの風土の中から生まれてきたもの」であり、日本の風土に合った住まいは、日ざしをさえぎる構造をもつ伝統的な日本家屋である、ということがこの文章の要点。その伝統を無視して建てられたコンクリートの建物の欠点と環境におよぼす悪影響を、2段落から後の文章で説明している。

